

中学校B

楽しく取り組むダンス授業の実践 ～展開・まとめ編～

小川 絢司（柏） 羽田 健太郎（葛南） 石川 聖菜（葛北） 折目 宇和（印旛）
鈴木 雄大（香取） 石田 麻美（東総） 北田 昌之（山武）

1 はじめに

中学校Bグループでは、平成26年度よりダンスの授業について研究を進めてきた。昨年度までの2年間は、『導入』の実践事例について検証し、円滑にダンスの単元が進められる実践方法についてまとめてきた。

昨年度までの研究の中で、各地区のダンス授業には特色があり、参考にすべき点が多いことが分かった。そのため、本年度はダンスの単元計画と展開の実践例について研究した。各地区から抽出した学校にアンケート調査を実施し、展開とまとめについての具体的な実践例と生徒の意欲を高める工夫についての調査を行った。

2 実践例

実践事例 1		基本の習得～作品創作～発表会・鑑賞会
【第2学年 現代的なリズムのダンス 9時間扱い】		
時	学習内容	指導の重点と工夫
1	○オリエンテーション (ダンスの授業での約束)	・「楽しむ」「つながる」「本気」を合言葉に授業を進めていく。
2	○いろいろなステップの習得	
3	○W-u pの動きを覚える	
4	○創作活動 (グループ作り、選曲、動き、隊形移動)	・元からある振り付けをコピーして踊るのではなく、生徒たちが学んできたステップを組み合わせたたり、考えたりして作品を作れるように工夫する。
5	【全体】W-u p	・選曲は言葉やイメージを大切に、動きと合うような曲をなるべく選ばせる。
6	↓ ・体ほぐし、ストレッチを含む	・授業中の声かけや、ワンポイントアドバイスを多くする。
7	↓	
8	【班別】グループに分かれて創作	
9	○発表会(作品の発表、撮影) ○鑑賞会(発表会ビデオ鑑賞、学習の振り返り)	・発表会では、衣装や小道具を使用することを許可し、表現運動の楽しさや魅力を味わわせたい。 ・撮影した作品を鑑賞し、さらに1学年先輩の作品からも表現運動への意欲を高めさせたい。

実践事例 2

毎時間の終末に創作ダンス発表

【第1学年 現代的なリズムのダンス 6時間扱い】

時	学 習 内 容	指導の重点と工夫
1	○オリエンテーション (リズム慣れ)	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の発想力を大切にする。 ・できるだけ自由に、動きを引き出せるような雰囲気作りを心がける。
2	○ロック、サンバ、ヒップホップの特性をつかんだ動きづくり	
3 4 5 6	○即興によるダンス創作 【個人】 → 【グループ】 <ul style="list-style-type: none"> ・1時間ごとに「4つのくずし」をテーマにしてダンスを行う。 ・毎時間の最後の10分で発表・鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・「4つのくずし」一つ一つを意識することで、ダンスの迫力が変わっていくのを毎時間の変化として発表しながら確認する。

実践事例 3

体育祭で全校ダンス発表

【全学年 現代的なリズムのダンス 9時間扱い】

時	学 習 内 容	指導の重点と工夫
1	○オリエンテーション (実行委員の選出、昨年度までの流れの振り返り)	<ul style="list-style-type: none"> ・体育祭で全校ダンス発表を実施し、授業での学習活動を地域の方々にも見ていただく機会とすることを生徒に伝える。 ・オリエンテーションで、体育祭までの取り組みをしっかりと把握させることで、意欲につながるよう指導する。
*	○夏休み中に実行委員 (ダンス実行委員) の集まりを前半3回、後半3回行う。	
2	○学年ごとに、実行委員を中心にステップ練習を行う。(タブレットの活用)	
3		
4	【学年別】 グループ練習、動き、隊形づくり	
5	ビデオ撮りで確認→変更	
6	【全体練習】 隊形、構成づくり	
7		
8	○発表 体育祭当日 (ビデオ撮影)	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の場を体育祭とし、全校で取り組む内容とする。 ・男女共修とし、互いに協力して学習することで、踊ることの楽しさを学ぶようにする。
9	○鑑賞会 (体育祭発表時のビデオ鑑賞、相互評価、振り返り)	

【第1学年 フォークダンス 3時間扱い】

時	学 習 内 容	指導の重点と工夫
1 2 3	♪マイムマイム ♪オクラホマミクサー ♪コロブチカ ○その踊りが生まれた国や地域、歴史、文化について知る。 ○踊り方の特徴を捉え、音楽に合わせて楽しく踊る。 ○ステップを覚える。	・かけ声を入れて踊るところなど、盛り上がるようにする。 ・各個人で動きの習得とペアや集団で手をつないで楽しく踊れるように、明るい雰囲気づくりをする。
*	○校外学習のキャンプファイヤーで踊る。	・次年度の学校行事（校外学習）のキャンプファイヤーで、全員で楽しく踊る。

3 その他の工夫

(1) オリエンテーション後の活動の工夫

① 楽しめる雰囲気作りについて

- ・「リズムに乗って体を動かす」「仲間と共に楽しむ」ことを重視して学習を進める。
- ・グループ編成は、1グループ3人以上とする。
- ・導入にフォークダンスを行うことで人間関係作りを行う。また、ステップ等も難しくないため、どの生徒も踊りやすい。
- ・準備運動に山武市内統一の踊り（ワンツーサンム）を取り入れる。3年はワンツーサンムに加えて、エアロビクス運動も取り入れる。
- ・リズム体操を取り入れ、ダンスが苦手な生徒も取り組みやすいようにする。
- ・ダンスが苦手な生徒のために、今年のダンス（体育祭）を使って、リズムの取り方や簡単な振りの確認をする。

② ICT機器の活用

- ・大型テレビとビデオを常時設置し、撮影・確認・修正ができるようにする。
- ・タブレットを班で一つずつ用意し、インターネットを用いてベースになるダンスを選択する。
- ・タブレットを活用し、振り付けの確認や移動の仕方などを自分たちで修正する。
- ・タブレットのソフトを使用し、反転の動きを使ってダンスを習得する。

③ 楽曲の選択

- ・楽曲の選択の際、ヒップホップやJ-POPなど踊りやすい楽曲を提示する。

(2) まとめの段階の工夫

① 学校行事と関連させる

- ・発表会を行い、最優秀作品は次年度の体育祭で「全校女子ダンス」として披露する。
- ・発表会は、体育祭で踊る場所を決めるオーディションを兼ねており、男子も含めた3年生全員と3年職員が参加し、職員の採点により審査が行われる。
- ・フォークダンスは林間学校のキャンプファイヤーで男女ともに踊る。

② 発表会の実施方法の工夫

- ・発表会を実施し、相互に鑑賞をして評価する。ビデオ撮影をして他のクラスや学年の作品を見て、さらに興味関心が高められるようにする。
- ・発表会のプログラムを、カラー用紙で印刷して職員に配付し、空き時間の先生方に見に来てもらう。

③ 発表会の映像の活用

- ・発表会の映像は、次年度のオリエンテーションで活用する。前年度の作品を鑑賞することで、学習の見通しが持ちやすくなり、経験のない生徒も身近な先輩たちの作品を見ることで、意欲や自信をもって活動できる。
- ・発表会の映像を、次時の鑑賞会で自分たちの作品の完成度を把握することで、喜びや達成感を味わえるようにする。

④ アンケートの実施

- ・アンケートを実施し、次年度に創作する生徒に還元する。

4 おわりに

ダンスが必修化になり数年が経過しており、各学校で様々な工夫を凝らしながら授業を実践している様子うかがえる。ダンスという単元で何を生徒たちに伝えて、活動させ、身につけさせるかを改めて再考する機会となった。ぜひ、この実践事例をもとに各学校で工夫を凝らし、よりよいダンス授業の実践に生かしていただきたい。